

わが村は美しく

帯広市編

第十二回 NPO 特別賞
合同会社ノーサム



野外で染めを体験。それぞれに模様が違って面白い。



自然から生まれたカラーパリエーション。パステル調の優しい色合いが特徴。

お話をしてくれた人



合同会社ノーサム 代表社員
円城寺 篤 さん



野を染めて十勝のローカルカラーを創出。
服飾ブランドが地域の
「ひと」と「もの」をつないで。

棄てるもので染める。
自然の色合いが魅力。

農業は食料を生産するだけでなく、美しい景観を生み出し、自然環境や国土の保全、文化の伝承など多面的機能を持つ。酪農王国・十勝でユニークな活動をしている合同会社ノーサム。代表社員の円城寺篤さんは話す。

「宿泊、飲食、服飾と分野の違う十勝出身の三人で二〇二二年にノーサムを設立しました。食や観光以外にも十勝を表現したいと、自然や色に焦点を当てる活動をしています」。本別町で飲食業を営む尾崎将寛さん、

帯広で服飾関連の仕事をする中山勝治さんとともに、地域の「ひと」と「もの」をつなげる活動だ。

野(nō)のもので染(some)める。野染めをローマ字表記に

した nosome(ノーサム)がブランド名に。英語の「同じではない」意味も込められている。

本別町の農家で、収穫した玉ねぎから大量の外皮が廃棄されているのを聞いた。これを何かに利用できないかと模索し、外皮から抽出した染料で染色する服飾ブランドが誕生したのだ。

ノーサムの製品は、「捨てられるものでしか染めない」「全て手作業」というルールがある。阿寒湖温泉の温泉水を活用し、アイヌの伝統的な手法を用い、廃棄物から抽出した染料で染色する。それが十勝(道東)全域で創り上げた「色」(ローカルカラー)なのだ。

しだいに染色用素材の種類も広がった。池田町のワイナリーのブドウの皮、芽室町のピーナッツの殻など、棄てられる素材は少なくないのだ。

第11回コンクール



参加しよう、広げよう、いいもの伝えよう
「わが村は美しくー北海道」運動

帯広市へは、JR根室本線帯広駅で下車。周辺を散策するなら駅レンタカーを利用すると便利。ノーサムのショップは駅から徒歩7,8分。営業は主に火～土曜で、11～19時。各地で販売会を開催するときは休業も。ノーサムの公式ホームページではネットショッピングも可能だ。十勝の観光情報は十勝観光連盟の「とちま晴れ」を参考にどうぞ。

お問い合わせ／☎0155-67-7770



4 棄てるものだけを染料に。「着るワイン」「着る野菜」などインパクトのあるキャッチコピー。



3 「絞り」をテーマにした新作。秋冬に重宝しそうな長袖Tシャツ。



8 廃棄される玉ねぎの外皮を染料の原料として、年間使用量は毎年確保している。グッズで染めチャレンジ。



6 声が掛けられ積極的にポップアップ店舗で販売を行い、ノーサムブランドをアピール。



5 JR帯広駅から東へ7、8分ほどのところにあるノーサムのショップ

地域のつながりを色で表現。 ストーリーのある商品展開

帯広駅にほど近いノーサムのショップでは、Tシャツやパーカー、トートバッグやキャップなどが販売されている。日常使いができるものばかり。さまざまな染料から生まれた商品はナチュラル感が漂う。微妙な色合いと使いこまれたような風合いで、一点ものの個性がある。

染め色の研究を重ねるうち、自分たちの町のこんな素材で染められないか？という相談が持ちかけられるようになった。「そば殻で染められないか」という相談もありました。うちは染めに徹しているので、それぞれの町が染めを生かしたオリジナル商品を作っていけばいいと思っています。全てがノーサムのブランドである必要はないのです」と強調する。

さらに、染めを体験したいという要望も増え、ワークショップや体験教室の開催、服飾関係の大学を対象とした講演など

も積極的に展開。「体験では、棄てるもので染めるというのをモットーに、参加者個々に棄てるものを持参してもらい染めてみる。Tシャツなどのシミが染め上がりによって意外な効果も。自然がもたらす化学反応の学びの機会にもなります」と円城寺さんは話す。

あらためて気がついたのが染色は化学なのだ。玉ねぎの皮でも媒染剤（鉄やアルミニウムなど）が異なると色は変わる。知っているようで普段はあまり意識しない日常の化学。ノーサムは、服飾ブランドだが、化学の実験や研究所でもあった。

「しだいに色褪せる変化を楽しむのも染色の魅力。染め直すことも可能なので、長く愛用してくれたら本望です」と円城寺さん。週単位でポップアップ出店の誘いがあり、販売で全国を飛び回ることもあるそうだ。

食べるものを作るだけが農業ではない。農業や地域と密着して新たな「十勝の色」を創造すること。ノーサムが生み出すストーリーの今後が楽しみだ。



「わが村は美しく北海道」運動は、北海道の農林水産業をより豊かにするために、2001年にスタートしました。2年に1度コンクール形式で優秀な活動を表彰しています。コンクールは1年目に優秀賞、奨励賞を表彰し、2年目に優秀賞から大賞を決定。地域の資源を掘り起こし、地域の活力とすると同時に活動を広くアピールし、豊かな北海道を未来へと受け継いでいくことを目的としています。

お問い合わせ／国土交通省 北海道開発局 農業水産部農業振興課 ☎ 011・709・2311 (内線5685)

